

先生の推し本 第2回

2021年10月4日
～12月末頃



三浦 徹 先生

(パキスタンにて)

1975年、東京大学教養学部教養学科卒業。平凡社編集部勤務を経て、1986年、東京大学大学院人文科学研究科東洋史学専門課程修士課程修了（文学修士）。

東京大学文学部助手からお茶の水女子大学文教育学部講師へと移り、1999年に同文教育学部教授（比較歴史学、グローバル文化学）となる。以降、国際交流室長・評議員、文教育学部長・評議員、理事・副学長・附属図書館長などを歴任。

現在、お茶の水女子大学名誉教授。

専門は、アラブ・イスラム史、中東地域研究。

テーマ 発見と行動

私は、決して読書家とはいえない。小中学生のころはもっぱら外で遊び、探偵小説以外の本を読むことはなかった。17歳のころ、人生と社会に悩み、本に答えを求めた。大学卒業後、出版社に勤め、雑誌と事典の編集に携わり、31歳で大学院に入学、本を読むことが仕事の一部となった。そんな私にとって、読書とは、なにかの発見や行動へと導いてくれるもので、一冊の本から芽づる式に知識が広がった。

驚いたことに、今回の私の「推し本」の多くは、お茶大に所蔵されていた。私が感動した本は、選書を担当する図書館職員目のとまる「時代の代表作」だったのだろう。いまここにこれらを展示し、みなさんと共有できることは、「時空をこえる」図書館ならではの営みである。

お茶大図書館HPの
企画展示ページへはこちら

